

卒業生は今

●●● MAILBOX

佐藤 明子
幼児教育学科 2004年卒



私は3年生の時に劇団四季のオーディションに合格し、4年生は劇団の研究生をしながらという状況でしたが、先生方のご協力のお陰で無事に卒業することができました。劇団四季では「ライオン・キング」などの作品に出演し「人間になりたがった猫」ではヒロインを演じました。退団後に結婚し、今は1児の母です。保育士として仕事をしたことのない私ですが、子どもと同じ目線に立つこと、子どもと一緒に笑い泣くこと、大学時代に学んだ皆さんの事を思い出しながら、毎日、子どもとのかけがえのない時間を過ごしています。今でも大学の先生のご指導の元、踊らせていただく機会がありますので、いつか息子と一緒に踊ることができたら幸せです。

諸角 舞
児童教育学科 2012年卒



初めての社会人生活は、思っていたよりも大変です。生活リズムの違い、子どもたちとの生活、

想像以上の事務仕事の多さ、教材研究など、とにかくすべてが大変です。しかし、初めて受け持つ子どもたちは本当にかわいくて「あ、ちょっと字がきれいになったな。」「お話が上手になったな。」など、日々の成長がとても楽しいです。最近ではできることも増え、一生懸命学習する姿や、友だちを助けてあげる姿が嬉しいです。半年以上たち、私も子どもに育てられていると感じています。残り5か月、この子たちと全力でぶつかっていこうと決めています。

岩淵 祐
観光文化学科 2007年卒



私は、ベトナム・ホーチミンに昨年開業したHotel Nikko Saigonに、オープニング・スタッフとして開業前の準備段階から働いています。職種はゲストリレーションです。大学卒業時は英語を身につけたい気持ちが強かったので、すぐに就職はせずにイギリスに1年3ヶ月の語学留学に行きました。帰国後しばらく日本で働きましたが、やはり海外への憧れが強く、海外就職を決めました。気づけば、ベトナムに来て1年9ヶ月が経ちました。多くのベ

トナム人や日本人・外国人との出会いや別れの中で感じたことは、どこで働くか、どのように働くかということよりも誰と出会うかが大切なのではないかとことです。多くのことにチャレンジし、多くの人々と出会うことが自分の成長に繋がると感じています。

白田 若菜
大学院(心理学専攻)2011年卒



私は現在、千葉県総合教育センターと千葉市児童相談所に勤務しています。教育センターでは、来所相談と電話相談があります。はじめは、顔が見えない中での電話相談に、戸惑いを感じていました。しかし、周りの先生方に助言を頂き、徐々に心にゆとりが持てるようになりました。そして、相談をする方にとっては、初めての場所に電話をすること・子どもを連れてくることは、大変なことだと感じるようになりました。まずは、電話をしてくれたことや、来所してくれたことに感謝し、困っている気持ちに寄り添いながら、日々相談を行っていきたいと思っています。

海外ボランティア活動



国際英語学科3年の星野ひかりさん、田村優子さん、直井美樹さんが、夏休みにタイの孤児院でボランティア活動に参加しました。3人のメッセージの一部を紹介します。

「私たちは子どもたちと一緒に市場で買い物をしたり、虫を見に行ったりしました。また日本から持ってきた古着を市場で販売し、その売り上げを孤児院に寄付しました。」(星野さん)

「最初は言語が違う子どもたちとうまくコミュニケーションをとることが出来たのかと不安でしたが、私たちが訪問するなり「ピー！（お姉さん）」と言って抱きついてきたり、手を引いたり、子どもたちから私たちを受け入れてくれました。」(直井さん)

「タイの人々は皆笑顔で、市場を歩いていても列車に乗っていても、とてもフレンドリーに話しかけて来てくれました。私はこの一週間で、想像していた以上に貴重な経験と大切な思い出がたくさんできました。」(田村さん)

本当に得難い経験になりましたね。お疲れさまでした！



編集後記

- 今年で、開学25周年を迎えることとなりました。学び舎も大きく変わっていきます。卒業生の皆様、ぜひ遊びにいらしてください。(K.U.)
- 情報が早く入る委員会 (M.H.)
- 毎号カットに使う花の写真は齋藤哲郎先生の撮影です。感謝。(N.O.)

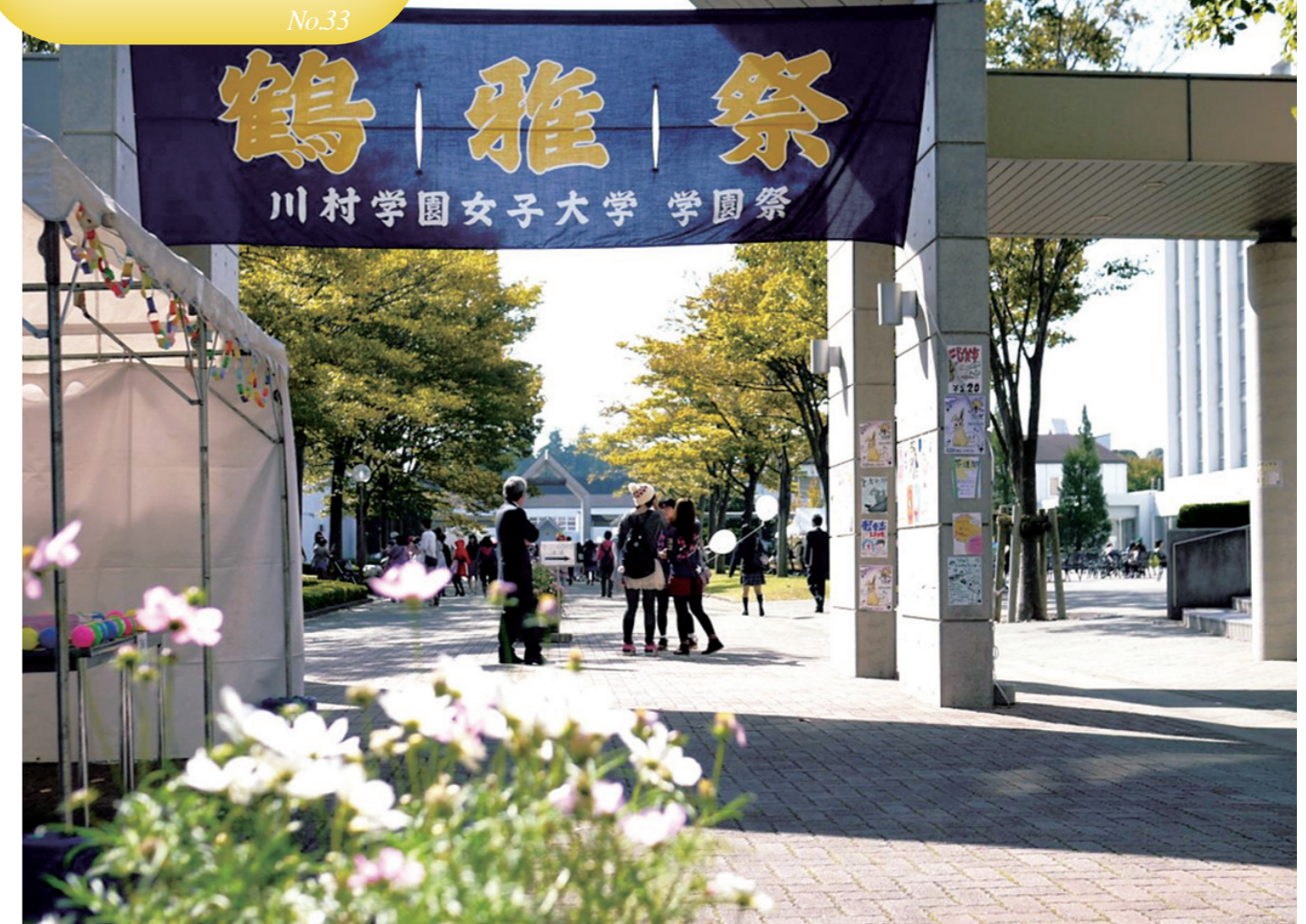
発行日/平成24年12月20日第33号発行 制作/川村学園女子大学広報委員会

花時計

No.33

川村学園女子大学

〒270-1138 千葉県我孫子市下戸1133番地
Tel. 04-7183-0111(代) Fax. 04-7183-0115
ホームページ <http://www.kgwu.ac.jp/>



福祉の思想

生活創造学部長 吉武 民樹



TAMIKI YOSHITAKE

福祉の歴史を辿ると、困難な時代にこそ、卓越した思想家を見出すことが出来ます。

ベヴァリッジ(William Henry Beveridge)は、チャーチル(Sir Winston Leonard Spencer-Churchill)首相の下で、第2次世界大戦の最中の1942(昭和17)年に、完全雇用の維持等を前提に、全国民を対象とし、ナショナルミニマムを保障する、普遍的(ユニヴァーサル)な社会保障の実現を提言しました。英国は、ベヴァリッジ報告に従って、社会保障制度を基礎とした国家体制、いわゆる「福祉国家」の実現に努め、この「福祉国家」は他の先進国に大きな影響を与えました。ベヴァリッジ報告は、英国の国民に、過酷な戦争を戦う意味を伝え、戦争の後に希望を持って築いていくものを示したと言われています。

デンマークのバンク・ミケルセン(Neils Erik Bank-Mikkelsen)は、第2次世界大戦中、ドイツに占領されたデンマークで、レジスタンスの地下組織の記者となりましたが、逮捕されて強制収容所に送られます。同僚の編集長は銃殺されましたが、彼は生き残りました。戦後、デンマークの社会省に入り、知的障害者の施設を担当します。当時のデンマークでは、数百人から1500人以上の巨大な施設で知的障害者が生活していました。ナチスと戦って勝利したのに、これらの施設は、自分が入っていたナチスの強制収容所と雰囲気が似ていると感じた彼

は、1950年代初めに、大型施設に疑問を持つ親達とともに、親の願いを「ノーマライゼーション(デンマーク語では、ノーマルセーリング)」と表現しました。「ノーマライゼーション」は、今日では、障害福祉の分野だけではなく、広く福祉、医療、介護サービスの基本理念となっています。

日本の糸賀一雄は、戦前、戦中に滋賀県庁に奉職し、秘書課長などを歴任しますが、戦後の混乱期の中で、知的障害児の入所、教育、医療を行う「近江学園」を創設し、園長となります。あらゆる困苦と戦いながら、学園の充実を図って行く中で、「この子らに世の光を」ではなく、「この子らを世の光に」と唱え、コペルニクス的転回によって人間の新しい価値観を創造することを目指しました。「ノーマライゼーション」の先を視ていたのではないかと思います。

この3人は、第2次世界大戦を、それぞれ違った立場で体験しながら、戦争の後の世界の再生に希望を持って取り組みました。その思想や理念は、70年近くたった今日でも、社会保障や福祉の基本となっています。失われた十年や東日本大震災を経験した私達も、厳しい社会状況や政治経済状況にありますが、このような先達の足跡を良く見ながら、私達自身の課題に希望を持って取り組んで行きたいものです。

開学25周年記念公開講座



講座番号	学科・氏名	題目・レジュメ
1	日本文化学科 今関敏子教授	宮廷女房という生き方 鎌倉期の宮廷女房、後深草院二条の敷奇な運命に迫る。『蜻蛉日記』を皮切りに平安鎌倉期の女性たちは自己の人生、生活、経験を連綿と綴ってきた。二条の特殊性と時代背景はどのようなものか。何よりもなぜ、彼女は自己を語ったのか。
2	史学科 西川 誠教授	史料で読む和宮の生涯 公武合体のために、有栖川宮熾仁親王との婚約を破棄して、徳川家茂に嫁した皇妹和宮。彼女の生涯を、さまざまな史料を読みながら、たどってみましょう。
3	史学科 山本由美子教授	ヴェールの文化史 女性はどのように自らの身体を包んできたのだろうか。イスラム教徒が遵守するブルカ、チャードル、ヘジャブなどの包む衣類の特殊性、及び歴史的・文化的な起源とその発展をふまえて女性の身体のタブーの問題を調べてみよう。
4	国際英語学科 菱田信彦教授	ジマイマは森へ行った 『ピーターラビットのおはなし』の作者、ビアトリクス・ポターは生物学の研究を志していたが、彼女の時代に女性が研究者として認められるのは難しかった。ポターの作品には、自分を受け入れなかった社会への密かな批判が示されているという。作品を通して当時の女性の立場を見る。
5	国際英語学科 手塚裕子教授	旅する女性作家 旅は、未知の世界への冒険であり、閉塞的な日常からの脱出であり、自己実現の探求である。女性作家キャサリン・マンスフィールド(1888-1923)の旅を、ニュージーランドからロンドン、南フランス、イタリア、スイスへと辿り、20世紀初頭、モダニズムの時代の女性と旅について考えたい。
6	史学科 高津純也准教授	「女は天の半分を支える」 伝統中国は男尊女卑で女性は家から出られなかった。しかし共産党革命以前から農村や工場でしたたかに働く女性もいた。また逆に近年の改革開放は女性の地位低下を一部で招いている。苦しみつつも近代化と経済成長を実現させたこの100年間の、中国の働く女性の姿を取り巻く環境の変化について概観する。
7	史学科 梅村恵子教授	光明皇后 聖武天皇に協力して天平文化を開花させた光明皇后は、律令法が制定されてはじめて立てられた皇后でもある。皇后は皇女に限るという律令の規定に外れる藤原氏出身の皇后が、その矛盾をどのように乗り越え、新しい皇后像を築いていったのか。光明皇后の事績を辿りながら、古代の皇后の役割を考えたい。
8	日本文化学科 酒井正子教授	いのり、うたう、沖縄の女性たち 琉球弧(沖縄奄美)の島々では、女性の霊的な力に対する信仰が色濃くみられます。神まつりを司祭する神女(ノロ)、様々な人生の悩みを解決する女性シャーマン(ユタ)が活躍し、死者を弔う葬送歌も、集落の女性たちによってうたわれます。固有文化の継承者として重要な役割を担う女性たちの姿を紹介します。

開学25周年記念公開講座「女性と文化」

公開講座「女性と文化」には、おかげさまで大勢の方にご参加いただきました。8回の講座のいずれも出席者は50名以上、最高75名で、年代も20代から70代にまでわたりました。8回すべて受講された26名の方には、副学長から「修了証」が授与されました。

- 以下に受講者の方々の声を少々紹介します。
- ◎先生の話し方が大変魅力的でしたので、これを良い機会に「とはずがたり物語」を読んでみたいと思いました。
- ◎レジュメがしっかりしていて流れがとてわかりやすかった。書簡をたどりながら歴史を見ていくのはとても楽しかったです。
- ◎古代沖縄の女性の価値の高さ、尊ばれていた事にびっくりしました。そういう面では現代より、更に近代的だったんですね。
- ◎無料なのに、すばらしい講座をありがとうございます。今後も続けてください。
- ◎おとし娘がこの大学を卒業しました。娘がここで学ぶことが出来て、本当に良かったと思います。
- 受講者の皆様、本当にありがとうございました。

日本文化学科  今関 敏子 教授	史学科長  西川 誠 教授	文学部長  山本由美子 教授	国際英語学科  菱田 信彦 教授
国際英語学科  手塚 裕子 教授	史学科  高津 純也 准教授	大学院研究科長  梅村 恵子 教授	日本文化学科  酒井 正子 教授

BOOKS

谷林 真理子 共著
(国際英語学科)

現代演劇研究会 著
『ドラマで観る
アメリカ社会』

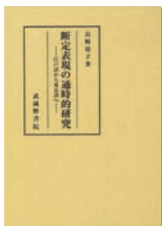
- 2012年11月発行
- 新水社



長崎 靖子 著
(日本文化学科)

『断定表現の通時的研究
—江戸語から東京語へ—』

- 2012年9月発行
- 武蔵野書院



菅井 洋子 著
(幼児教育学科)

『乳幼児期の絵本場面における共同活動に関する発達研究：共同注意の指さしからの探究』

- 2012年3月発行
- 風間書房



柚木 理子 共著
(生活文化学科)

上林千恵子編著
『よくわかる産業社会学』

- 2012年6月発行
- ミネルヴァ書房



高山 啓子 共訳(観光文化学科)
水川 喜文・中村 和生 監修
マイケル・リンチ著
『エスノメソドロジーと
科学実践の社会学』

- 2012年10月発行
- 勁草書房



御進講のこと



史学科西川誠先生が、7月3日に、天皇陛下に、明治天皇の御事蹟について御進講しました。今年が明治天皇崩御百年にあたるためです。

※御進講：天皇や身分の高い人に学問を講義すること。

賜物(おみやげ)でいただいた、残月という菊の御紋入りの和菓子です。



学 科 ニ ュ ー ス

●史学科

史学科では、毎年9月初旬に4年生の卒論中間発表と史跡見学を兼ねてゼミ旅行に行きます。西川誠ゼミは京都へ、生井澤幸子ゼミは広島へ、高津純也ゼミは神戸へ、そして、梅村恵子ゼミは2泊3日で京都・奈良を訪ねました。梅村ゼミでは陽のあるうちは史跡めぐり、夕方からは魔の(?)中間発表です。最終日は、ゼミ生全員で舞妓さんに変身。梅村先生から外歩きは禁止とのことでしたが……町家のお庭で写真撮影を楽しみました。

●日本文化学科

例年台湾の中山医学大学から交換留学生を迎えています。今年度後期は葉静文さんが来日しました。葉さんは小学生時代に2年間ほど、お父様の仕事の関係で日本の学校に在籍していました。そのためか日本語が大変流暢で、日本の生活にもすぐ慣れ、毎日をエンジョイしています。人々が親切で優しく、大学の科目が充実しているのがうれしいとのこと、意欲的に勉学に取り組んでいます。日本舞踊の実技と茶道部にも参加し、鶴雅祭では、初めて着物を着てお茶会をしました。日本の伝統文化を体験できる貴重な機会だと張り切っていますので、どうぞよろしくお祈りします。



●社会教育学科

～房総の自然と歴史・文化に触れる～
社会教育学科では、博物館実習の授業の一環として、調査・採集・見学実習が房総半島中部の長生地域から夷隅地域で9月3～6日に実施されました。この実習では、海藻標本の採集と資料作製、縄文土器の採掘、長南町郷土資料館などの地域博物館における展示とバックヤードの見学、また、笠森寺など国および県指定の文化財の見学が行なわれました。特に、葛飾北斎などの絵に影響を与えたとされる「波の伊八」こと武志伊八郎信由の木彫りの欄間などの資料を間近に見られ、房総の自然と歴史や文化を学ぶ良い機会となりました。



波の伊八の作品がある行元寺にて

●観光文化学科

「旅博2012」を見学
9月22日(日)、1年生を対象に、東京ビッグサイトで開催された「旅博2012」の見学会を行いました。海外旅行を中心とした観光旅行情報を一堂に集めた、アジア最大級の旅行見本市で、30年近く続いています。今年は9月20日から23日までの4日間(ただし、一般公開は後半の2日間)で、総数12万6千人の来場者があったそうです。入場後は各自自由に各国のブースを見てまわりましたが、例えば韓国のブースでは顔パックを念入りに施してもらうなど、それぞれ楽しい時間を過ごしたようです。

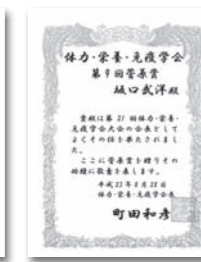
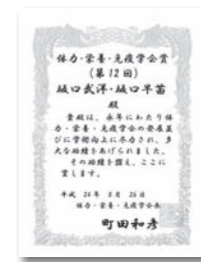


◆坂口 武洋・坂口 早苗両先生 学会賞受賞

両先生が第12回体力・栄養・免疫学会賞を受賞されました。永年にわたり同学会の発展並びに学術向上に尽力された功績によるものです。

◆藤田 節子先生 協会賞受賞

藤田節子先生は2012年5月、「永年にわたり教育活動などをとおして、情報実務者並びに学生への図書館情報教育に貢献された」功績により、一般社団法人情報科学技術協会から「第37回情報科学技術協会賞」として「教育・訓練功労賞」を受賞されました。



第24回 鶴雅祭を終えて

学園祭実行委員長 幼児教育学科3年 齊藤 幸

今年の鶴雅祭は、10月20・21日に開催されました。テーマは“よりもっと笑顔に!!”という思いを込めた『Smile Much More』としました。

今年は、準備日の前日から台風の影響により強風や雨などが心配されましたが、私たちの思いが届いたのか、準備日・開催日と天候に恵まれ晴天の中、学園祭を開催することができました。(キャンパス内には)初めて企画したパフォーマンスコンテストやシルバニア・キッズコーナー、各学科・クラブサークルの特色を生かした展示や公演・模擬店などで楽しむ人々の姿や笑顔が見られ、実行委員としてうれしく思いました。多くの方に支えられ、学園祭を盛況のうちに終えることができたと思っています。

来年は、今年の経験を生かし、さらに充実した鶴雅祭になるように期待しています。

最後になりましたが、実行委員を代表として、鶴雅祭を成功へと導いてくださった皆様に厚くお礼申し上げます。



鶴雅祭レポート

教育学部

●幼児教育学科

幼児教育学科では、音楽Ⅱより、オペレッタ「大きなカブ」「シンデレラ」「ブレーメンの音楽隊」「11匹のねこ」を、体育Ⅰ(b.c)は、幼児が楽しく踊れる身体表現・創作ダンスを発表しました。体験コーナーでは、画用紙にクレヨンできれいな色を塗り重ね、引っ搔いて絵を描く、「クレヨン de スクラッチ」の絵画による体験、「うちゅうたんけいたい」は、宇宙をテーマに創造的な遊び場をつくり、多くの子どもたちに宇宙探検を楽しんでもらえることができました。



●児童教育学科

1年生による劇「赤ずきんちゃん」は人気のK-POPやAKBのダンスが入り、時折笑いも誘っていました。駄菓子にヨーヨーつり、工作コーナーでは「My写真フレーム」作りを楽しんでもらいました。また、ボランティアでダンス指導している我孫子市特別支援学校の生徒さんたちとのコラボダンスも多くの方が観に来て下さり盛り上がりしました。



●社会教育学科

社会教育学科では、学科内の有志を中心に「アンモナイト見に行かナイト」と題して、化石展示と喫茶店を開きました。様々な種類の化石を展示することで、子どもから年配の方まで楽しんでいただけました。



文学部

●国際英語学科

学科恒例の第17回スピーチコンテストが20日に行われました。発表者は6名でしたが、ニュージーランド研修に参加した齊藤千奈さんが、インターシップやホームステイでの印象的な出来事について熱弁を振るい優勝、彼女は学生賞にも輝きダブル受賞になりました。



●史学科

史学科は、3年生を中心として喫茶「Maple Café」を開店しました。テーマをハロウィンとして、飾りつけと仮装をして、メープルトーストを販売しました。「アイスのせ」が大人気で、バックヤードは大忙しで、沢山の方にお越し頂きました。



●日本文化学科

和風喫茶「月うさぎ」

今年も1年次生全員で和風喫茶をオープン！店の名前は「月うさぎ」。みんなで可愛い浴衣を身に纏い、饅頭や最中を売りましたが、中でも特に人気があったのは、うさぎの形をした“うさぎ饅頭”でした。たくさんのお客様の来店があったおかげで、無事に商品も完売することができました。

(大川 美奈子記)



あてやかに「藤むすめ」披露(日本文化学科学生による)

●心理学科

心理学科では、今年も「箱庭・コラージュ体験」「先輩に聞こうコーナー」を開催しました。「先輩に聞こうコーナー」では、様々な場所で活躍している先輩方から楽しくも貴重なお話を伺うことができました。また、学生たち(特に4年生)は学生生活最後となる学園祭で日頃の練習の成果を披露していました。



生活創造学部

●生活文化学科

日本で生まれた母子健康手帳は今年で70年を迎えました。そこで、生活文化学科ではパネル展「世界にひろがる母子健康手帳」を行いました。また、基礎ゼミナール、臨床栄養学実習の科目や災害時クッキングの紹介もご好評いただきました。毎年人気の鶏の照り焼き丼、シフォンケーキは、お昼過ぎには完売しました。



パネル展は「世界にひろがる母子健康手帳」



模擬店「鶏の照り焼き丼、特製シフォンケーキの販売」

●観光文化学科

観光文化学科では各ゼミの研究展示、1年生中心の南国カフェでのタピオカ販売、またマンガードリンク、フランクフルトの販売を行いました。お天気にも恵まれ盛況でした。



●プラスバンド部

私たちプラスバンド部は「Kawamura Music Theater」というテーマで演奏会を行いました。嵐のHappinessなど明るい曲を初めとし、「仁」のテーマのようなしっとりとした曲など幅広い曲を演奏しました。2日間とも沢山のお客さまが来てくださり共に楽しい時間を過ごせたと思います。



鶴雅祭クラブ

●演劇部 えすぼわ〜んど

今年の鶴雅祭は『合格ラインがやってきた!』を上演しました。部員一同鶴雅祭に向けて時間が少ない中にも、本番直前まで良い公演になるよう練習に励みました。本番には多くの方々にご来場いただき、部員も楽しんで上演できました。

レポート



●軽音楽部

私たちは、毎年千葉県内の他大学の学生さん達と協力し、ライブを行っています。今年の鶴雅祭では2日間にわたり、23組のバンドが出演し、会場を盛り上げました。それぞれの個性が集まり、最高のライブになりました。



輝いている学生たち

文学部

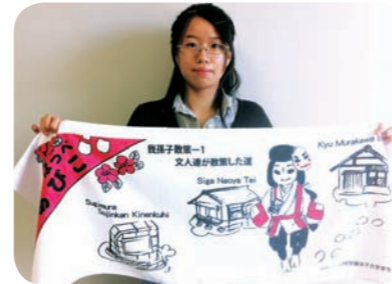
国際交流スピーチ大会を終えて

国際英語学科 3年 阿久津 理恵

私は9月23日に我孫子市で行われた国際交流スピーチ大会において、中央学院大学学長賞をいただきました。私は半年間のイギリス留学で、友達やホームステイ先の家族、そして両親などたくさんの人たちに支えられて生きていることをあらためて痛感しました。今回のスピーチにはその人々への感謝の思いをこめました。このような機会をいただけて本当に良かったと思います。

史学科 3年 高宮 真菜

私は我孫子市職員の方々と協力して市内被災地の復興を支援するオリジナルタオルを製作しました。デザインにする際に我孫子市を調べると、史跡や文化財が多く残されているのを知り、我孫子市の史跡、志賀直哉邸と楚人冠公園の陶板句碑を選びデザインしました。我孫子市民はもちろん、他の地域の人達にも、史跡や文化財に興味を持ってもらい、人々に伝え、史跡を残していく気持ちになってもらえたらと思います。



心理学科 4年 川又 真悠

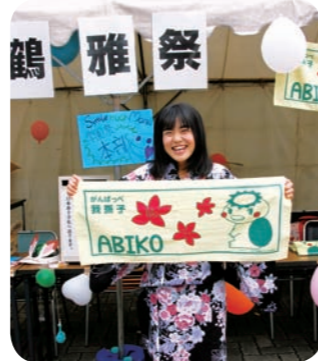
私は3年生から始めた小学校でのボランティア活動の集大成として、今年の9月、児童厚生員二級の資格取得を目指し単身研修合宿に参加してきました。4日間という短い期間でしたが、200

人の全国の様々な現場で働く方々との交流、保育や遊びについての勉強・実習というとても貴重な体験をすることができました。



日本文化学科 1年 海老原 歩実

この夏、私は美術部で我孫子市職員の方と協力し被災地復興を支援するタオルのデザインをしました。8月のあびこカップまつりや鶴雅祭などでも販売されました。カップまつりではこのタオルを見てかわいいと買って下さる方もとても嬉しかったです。私にとって貴重な体験となり、今後の作品制作にも生かしたいと思います。



教育学部

幼児教育学科 3年 木間 里香

私は、大学に入学してからいろいろなボランティアに参加をしてきました。今は実習先の乳児院で引き続き保育ボランティアをしています。実際の現場に入って子ども達と関わったり、経験を重ねていくことで保育の引き出しをたくさん作ることが大切であると学びました。今後も積極的に行っているボランティアに参加していき、その経験を将来保育の現場に活かしていけたらと思っています。あと少しの大学生活も思う存分楽しみ、達成感に満ち溢れた笑顔で卒業します！



社会教育学科 4年 合田 香苗

私は学科のイベント実行委員をしています。社会教育学科は、流しそめんやピザパーティーを毎年しています。また、学園祭も参加しています。私はリーダーを経験し、団体をまとめるには常に全体の状況や人の気持ちを察知し、行動することが重要だと学びました。



児童教育学科 4年 松下 さやか

9月の3週間の小学校教育実習を経て、10月に川村中学校の教育実習を終えました。5日間という短い期間でしたが、小学校で学んだ指導案の書き方などがとても役に立ったと思いました。特に、生徒たちと信頼関係を築くことができ、「これからの平和主義」という授業では、生徒たちとともに考えを深め、実りのある精錬授業を達成できたと感じました。

今回の実習は、まだ未熟ながら小学校から中学校を見通した教育的視点を身につけることができた貴重な体験であったと考えています。



生活創造学部

生活文化学科 4年生 谷澤 沙織

私は、小学校4年生から現在まで、ずっとバスケットボールを続けています。つらいことや苦しいこともたくさんありましたが、今までやめずに続けてきました。バスケットボールを通じてたくさんの経験ができ、仲間にも出会うことができました。私はそんなバスケットボールをこれからもずっと続けていきたいと思っています。



「我孫子市PRキャラクター選定」

観光文化学科 2年 戸田 恵・藤田 友香

今年の夏、我孫子市では市のPRキャラクターを一般公募しました。応募総数は約400点にのぼり、私たちは大学からの推薦で選定委員会に参加しております。委員会で候補作品を絞り、市民の投票を経て最終的に決定します。選定作業も楽しいものですが、自治体の「まちづくり」の仕事そのものにも興味を持つようになりました。



左より藤田さん、戸田さん

ふるさと紹介

国際英語学科 准教授 ウィリアム・キスチャック

Toronto is the capital city of the Canadian province of Ontario. The city of Toronto is a large, multicultural and vibrant city. One of my favourite places in the city is my home university, the University of Toronto (established in 1827). The downtown campus has many beautiful, old buildings echoing with the history of the city, and the university.

The many exciting things to do in the city include skating on outdoor skating rinks in the winter. In the picture, some of my family members are enjoying skating (and falling!) on an outdoor rink.



幼児教育学科 3年 本多 笑理 (宮城県名取市)

名取市は宮城県の南部に位置し、海や山の自然に囲まれた美しい町です。仙台空港や東北一を誇る雷神山古墳をはじめ、カーネーション生産や赤貝の水揚げなどが有名です。東日本大震災によりこれらの施設等はいくつかの被害を受けましたが、再開を目指して頑張っています。

SA・クラブ活動報告

SA

私たちSAは、学年・学科の壁を超えて幅広い交友関係を築いてもらうために、日常的に小規模なイベントの企画・運営を行っています。今年度企画し実行してきたイベントは、履修登録相談会やバーベキュー、浴衣着付け教室などです。どの企画にもたくさんの学生に参加していただきました。これからも私



たちSAは、多くの学生たちが交友を深めていけるような場を設け、大学生活の思い出が1つでも増やせるような楽しいイベントを企画・運営していきたいと思っています。

華道部

私たち華道部は草月流の先生指導の下、毎週水曜日12:00~16:00まで活動しています。部員はとても仲が良く、また、初心者からでも気軽に始められます。創立者記念日のときにお花を生けたり、毎月学生支援オフィスにお花の展示もしています。12月には毎年恒例のクリスマスリース作りもします。花束製作体験も随時行っているのでぜひ見学に来てください。



心理学科
3年
佐藤奈津美